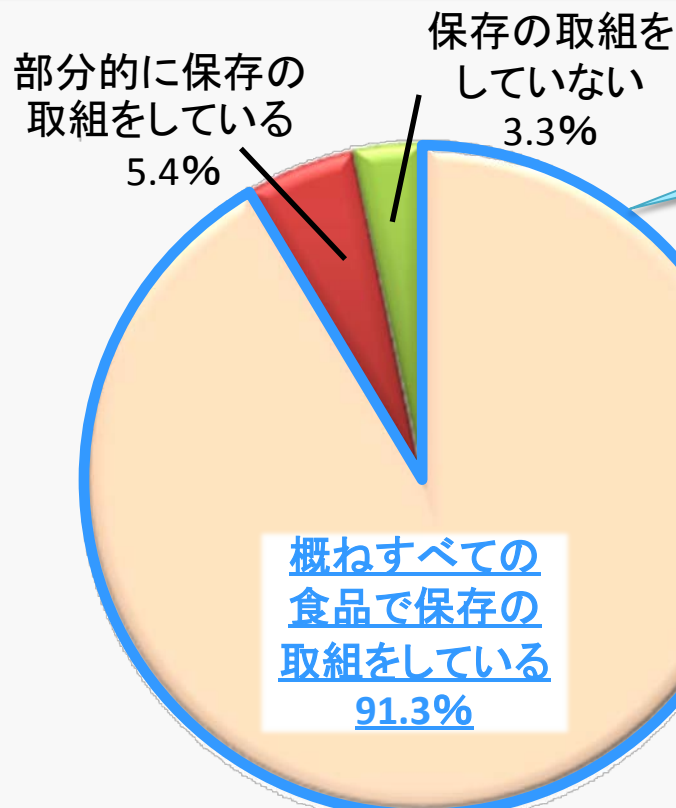


## 7. 食品トレーサビリティの取組状況について①

○ **基礎的なトレーサビリティの取組**は、調査対象食品事業者の**9割以上**の事業者で取り組まれています。

問 貴社は、入荷した食品の「入荷日、入荷先業者名、品名、数量」が記載された記録※を一定期間保存する取組をしていますか。当てはまるもの1つに○印を記入してください。

※入荷先業者から提供される納品伝票などで構いません。紙でも電子データでも構いません。



～平成23年度食品トレーサビリティ導入準備委託事業報告書より～

### 「入荷の記録」の保存理由(複数回答)

- ・経理上の必要性のため(81.1%)
  - ・食品の入荷経路を事後的に確認するため(51.5%)
  - ・税法上の必要性のため(49.0%)
  - ・在庫管理のため(45.9%)
- 等

### 「入荷の記録」の保存媒体(複数回答)

- ・伝票類(入荷先から受領した納品伝票等)(90.9%)
- ・情報システム(電子データ)(47.3%)
- ・帳簿類(紙)(40.9%)



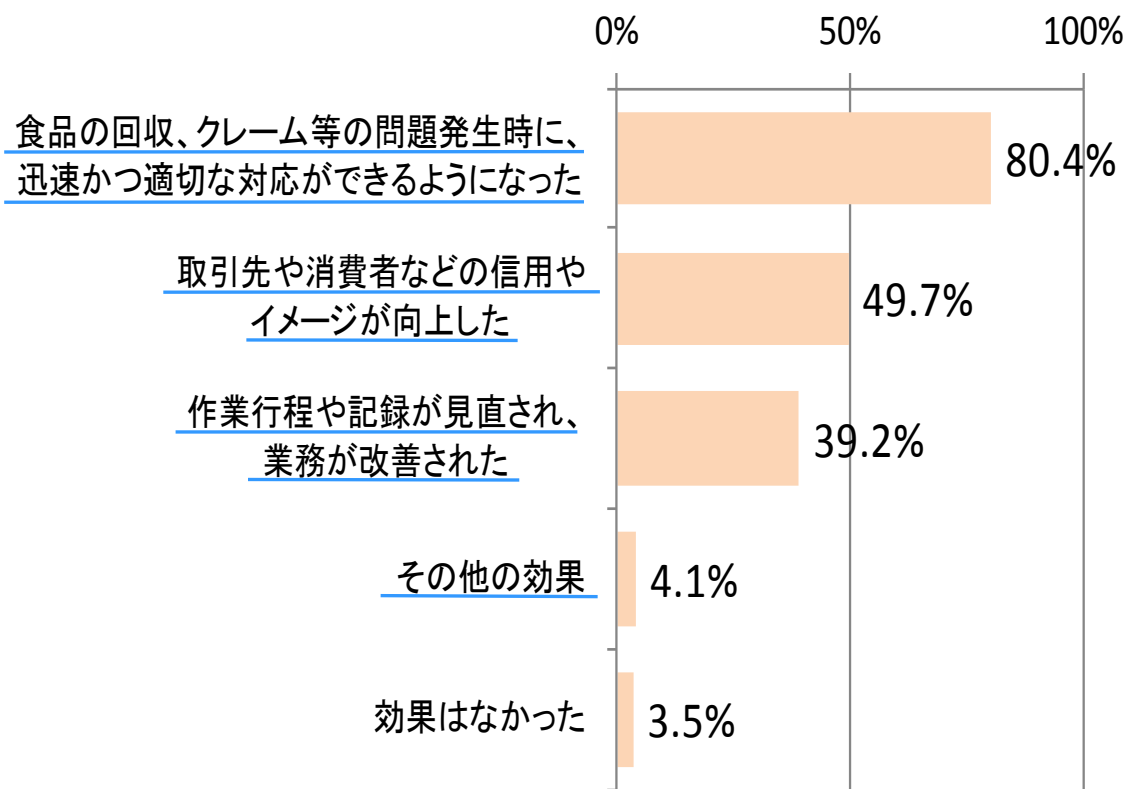
### 今後の課題

- ・「入荷の記録」を保存する必要性が認められない
  - ・「入荷の記録」を保存するのは手間がかかる
  - ・伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できない
  - ・伝票類のやりとりがなく、食品を入荷している
- 等

## 7. 食品トレーサビリティの取組状況について②

○「内部トレーサビリティ」の取組を実施している調査対象食品事業者の9割以上は、「内部トレーサビリティ」の取組を実施したことにより、**効果**があったと認識しています。

### 「内部トレーサビリティ」の取組を実施した効果 (複数回答)

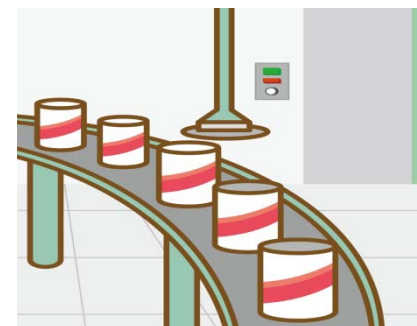


～平成23年度食品トレーサビリティ導入準備委託事業報告書より～

### 今後の課題

- ・「内部トレーサビリティ」の取組を行うと**作業量が増加**する
- ・「内部トレーサビリティ」の取組に**取り組む必要性が認められない**
- ・「内部トレーサビリティ」の取組を行うには、**新たな投資が必要**になる
- ・具体的に**何をすればよいかわからない**

等



## 8. 食品トレーサビリティの取組の促進について

- 食品トレーサビリティの取組を着実に促進していくため、食品事業者の食品トレーサビリティの取組を支援するとともに、地域段階における食品トレーサビリティの普及を行っていくこととしています。

### 食品トレーサビリティ促進事業委託費 (平成25年度予算)

#### ○ 事業内容

##### ・実践的なマニュアルの作成

中小事業者を含む食品事業者の多種・多様な課題に対し、きめ細かくかつ直接的な解消策を提供するため、実際の事業者の事例を収集するとともに、取引品目や業態等の特性に応じた優良事例等を含む実践的なマニュアルを作成します。

#### ○ 委託先 民間団体等



### 食品トレーサビリティの取組の普及 (消費・安全対策交付金)

#### ○ 事業内容

##### (1) 促進方策の検討等

都道府県等における協議会等の設置による促進体制の整備、促進方策の検討などを行います。

##### (2) 普及推進活動の実施

地域において、セミナー・講習会等の開催、相談窓口の設置、指導員等による普及推進活動などを行います。

##### (3) 実態調査の実施

記録の作成・保存等の状況を確認するための実態調査などを行います。

#### ○ 事業実施主体 都道府県、民間団体等



# 9. 食品トレーサビリティの取組事例について

## 事例1: 現金取引における簡易・迅速な入荷記録の作成

○取組事業者

- ・栗菓子製造業者
- ・従業員数: 5~9名



○原料(栗)の入荷の概要:

- ・約60名の栗生産農家が製造業者に栗を持ち込み、その場で計量を行い、現金買付けを行っている。

①取引のある農家の住所や電話番号を予め農家名簿に整理しておく。



氏名	住所	連絡先
〇〇 〇〇	〇〇市〇1丁目~	0123 .....
△△ △△	△△町△1番地~	0123 .....
.....	.....	.....

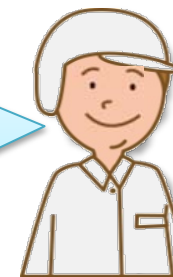
②入荷の際、栗の計量の合間に、入荷日、農家名、数量、金額等を簡易に記載できる「栗支払い伝票」に必要事項を記入し、保存する。  
農家には支払い伝票の控えを渡す。

栗支払い伝票  
年 9月 9日  
農家名 → [redacted] 様  
数量 13k 600g  
単価 1kg [redacted] 円  
金額 [redacted] 円  
製造業者名 → [redacted]

現金取引の際にも、「栗支払い伝票」に逐一農家の連絡先等を記入することなく、迅速かつ簡易に入荷記録を作成することが可能となり、記録の作成の手間を大幅に軽減している

○その他の経営上のメリット

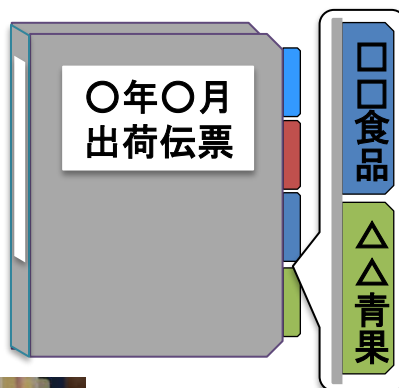
現金取引の際にも、経理上、入荷の記録を作成する必要があり、「栗支払い伝票」を保存することにより税務上の対応もできています。



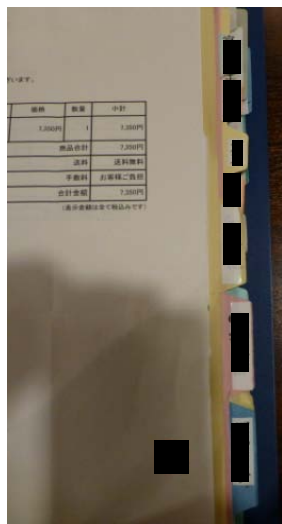
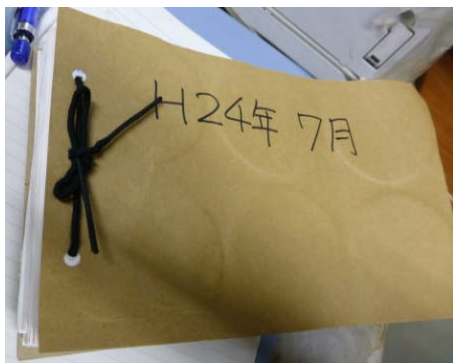
## 事例2: 入出荷伝票等を日付毎、取引先毎に整理して保存

○取組事業者: 卸売業者(加工食品(缶・びん詰)、飲料品; 正社員6名)、外食業(従業員8名)

○入出荷伝票等を、入出荷日毎、入出荷先毎に整理して保存



「いつ、どこから(へ)、何を、どれだけ」といった情報の速やかな確認が可能



○その他の経営上のメリット

受領書、請求書を出荷先ごとに区分管理することにより、月に1回の請求の際、請求書を迅速にまとめることができ、**業務の効率化**に繋がっている

